

第 39 回 日本受精着床学会 学術集会

0-147

兵庫, 2021.07.15-16

コロナ禍における患者会の意義と今後の課題
～オンラインにて患者会「養子縁組について」を実施して～

達富友美, 金田真紀, 杉本朱実, 森本義晴

医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

当院では、心地よい空間・環境・時間に配慮した患者会を定期的に院内開催している。しかし、新型コロナウイルス感染症収束の兆しは見えず、感染対策措置として急遽オンライン方式へ変更し実践した。「養子縁組について」で行った初のオンライン患者会の意義と今後の課題について検討した。

【方法】

開催 5 日前に変更を決定し、変更に同意した夫婦を対象にケースワーカーによるスライド講義 1 時間、質疑応答 30 分の患者会を ZOOM ウェビナーで行った。視聴者間の個人情報は共有できないシステムで、質問はテキストチャットにて運営側に表示された内容を司会者が読み上げ講演者が回答した。後日、妻を対象にアンケート調査を実施した。

【結果】

5 組全員が視聴し、4 名からアンケート回答を得た。オンライン患者会は 5 名中 3 名が「良かった」と回答し、その理由として参加のしやすさや感染リスクの少ない環境下で話を聞いたこと挙げ、ケースワーカーと直接対話ができなかったことを理由に 1 名が「どちらともいえない」と回答した。参加者間の交流を持たない形式については 3 名が「良かった」と回答した。質問方式については「他者の質問内容を見られる形が良かった」と 3 名が回答した。今後のオンライン形式での患者会参加については 3 名が「内容による」と回答した。

【考察】

直前の変更にも関わらず、全員が参加に至ったのは参加のしやすさ、テーマへの関心の高さ、感染リスク回避からと考える。参加者の満足度は高く、今回のオンライン開催の意義はあった。しかし、参加者は今後全ての患者会をオンライン化することを望んでいないことから、テーマによって開催方式を慎重に検討しなければならない。また、オンラインを採択した場合はウェビナーかミーティングの採用についても慎重に検討する必要がある。そして、患者会後も参加者の気持ちの表出や相談ができる場を提供し、継続した看護支援が必要である。